



わたしの青少年赤十字

詩・100文字提案作品集



はじめに

青少年赤十字の大きな特色は、学校教育の中に組織され、教師の適切な指導のもとで実践されていることです。

青少年赤十字に加盟している学校では、子どもたちがより積極的に青少年赤十字活動を推進することによって、人間尊重の精神を育み、自らが豊かな人間性の醸成を図ってほしいと願っています。

そこで、福島県支部では、子どもたちが実践していること、思っていることを一〇〇文字程度に表現した「詩・一〇〇文字提案作品」を募集いたしました。

多数の優秀な作品の中から「日本赤十字社福島県支部長賞」「青少年赤十字福島県指導者協議会長賞」「福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞」を特別賞として選び、以下、「優秀賞」「佳作」「入選」を選定させていただきました。また、受賞した作品が多数の学校には「学校賞」を、五年連続で応募された学校には「学校奨励賞」を授与させていただきました。

今年度もこれらの受賞作品をまとめ、本冊子を刊行することができましたことに深く感謝いたします。「人道」の精神のもと、子どもたちが未来に大きな夢をもち、その実現に向けて努力する生き生きとした姿を感じ取っていただければ幸いです。

募集作品

□詩（いのちの詩・愛の詩）

人間のいのちはかけがえないもの。

そのいのちを守るために、自分や周りの人、生きものを大切にしなければなりません。そんなみなさんの素直な願いや感動を、そして未来に向けての夢・希望をぜひ詩に託して表現してほしいと願い、作品を募集しました。

□わたしの一〇〇文字提案

「気づき、考え、実行したこと、しようとしたこと」を次のテーマから選んで、自分の考えを端的に表現した作品を募集しました。

「わたしがだれかのためにできること」

「世界の見知らぬ友へ」【小・中学生】

「世界の問題についての私の提案」【高校生】

「わたしの夢・福島の未来」

はじめに・募集作品

目次

特別賞及び学校賞・学校奨励賞

特別賞受賞者・学校賞・

学校奨励賞受賞校……………4

日本赤十字社福島県支部長賞……………5

青少年赤十字福島県

指導者協議会長賞……………9

福島県青少年赤十字

賛助奉仕団委員長賞……………10

詩「いのちの詩・愛の詩」

受賞者……………12

優秀賞……………14

佳作……………16

一〇〇文字提案

「わたしがだれかのために
できること」

受賞者……………24

優秀賞……………27

佳作……………29

一〇〇文字提案

「世界の見知らぬ友へ」

【小・中学生】

受賞者……………36

優秀賞……………37

佳作……………38

一〇〇文字提案

「世界の問題についての私の提案」

【高校生】

受賞者……………42

佳作……………43

一〇〇文字提案

「わたしの夢・福島の未来」

受賞者……………46

優秀賞……………48

佳作……………51

作品応募校……………55

年度別応募状況・令和五年度

テーマ別応募作品数……………56

作品審査を終えて……………57

審査にご協力いただいた皆様……………59

〔表紙〕

日本赤十字社東京都支部

石田 遊星

特別賞受賞作品



日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

須賀川市立第三小学校

六年 佐藤 大武

「わたしがだれかのためにできること」

相馬市立飯豊小学校

二年 志賀 蘭音

「世界の見知らぬ友へ」

白河市立東北中学校

三年 佐久間 柑奈

「わたしの夢・福島未来」

郡山市立富田東小学校

二年 柳沼慎之輔

青少年赤十字福島県指導者
協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

相馬市立八幡小学校

一年 井上 煌逢

福島県青少年赤十字賛助
奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島県立白河実業高等学校

三年 高野 桃花

学校賞

福島大学附属小学校

郡山市立富田東小学校

須賀川市立第三小学校

須賀川市立第三中学校

白河市立東北中学校

福島県立白河実業高等学校

学校奨励賞

福島市立福島第一小学校

須賀川市立阿武隈小学校

玉川村立玉川第一小学校

相馬市立中村第二小学校

相馬市立飯豊小学校

日本赤十字社 福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

須賀川市立第三小学校 六年 佐藤 大武

去年、ぼくたちが育てていたメダカを

今は五年生が育てている。

けんび鏡をのぞいた時、

卵の中の黒い目が動いた。

小さなメダカが

卵の中から出てきた時は感動した。

あの卵からかえったメダカたちから

また、卵がたん生しているらしい。

命は続いていくんだと思った。

「わたしがだれかのためにできること」

相馬市立飯豊小学校 二年 志賀 蘭音

わたしは、まだちいさい。

もし、めのまえでこまっているひとがいても、はずかしくてこえを
かけられないとおもう。

でも、ゴミがおちていたら、ゴミばこにすてることはできる。ちい
さいわたしができること。

「世界の見知らぬ友へ」

白河市立東北中学校 三年 佐久間柑奈

会話をしよう。翻訳機を、ペンを、ジェスチャーを。持てる全てを
駆使して、小さなことを話題にして、全員が楽しめる会話をしよう。
私達を隔てる広い海も、異なった言語も、きっと私達の前では壁にも
ならない。

「わたしの夢・福島未来」

郡山市立富田東小学校 二年 柳沼慎之輔

ぼくのしょうらいのゆめは、くすりをつくる、か学しゃになることです。コロナウイルスのような、つよいびょう気をなおすくすりをつくりたいです。

マスクのない、えがおとわらいごえがあるせかいにしたいです。

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞

「いのちの詩・愛の詩」

相馬市立八幡小学校 一年 井上 煌逢

「まー。」

ぼくはちかづく。

ままはギューしてくれる。

ままのにおい。

あんしんする。

ままはニコっとわらう。

ままからうまれてきてよかったな。

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞

「いのちの詩・愛の詩」

福島県立白河実業高等学校 三年 高野 桃花

私に出来ることが増えるたび、

おじいちゃんには出来ないことが増えていく。

ふと握ったその手には、

今も懸命に生きる跡がたくさんある。

あの頃私に差し出してくれたその手を、

今度は私が差し出す番だ。

詩
「いのちの詩・愛の詩」





優秀賞

福島大学附属小学校

四年 菅原 穂人

須賀川市立第三小学校

一年 鈴木 颯真

須賀川市立第三中学校

三年 加賀さくら

佳作

福島市立福島第三小学校

一年 正直 由衣

福島大学附属小学校

四年 大河内健太

四年 北村 唯奈

六年 雨田 陽翔

郡山市立富田東小学校

二年 吉田さくら

三年 島田 和玖

四年 芳賀 一織

須賀川市立第三小学校

六年 輿水 千夏

須賀川市立柏城小学校

四年 鈴木 悠空

須賀川市立義務教育学校稲田学園

六年 大河原希愛

六年 深谷 歩生

六年 稲部 瑛翔

石川町立野木沢小学校

六年 二瓶 沙羅

玉川村立玉川第一小学校

一年 鈴木 愛莉

平田村立蓬田小学校

一年 塙 妃菜

泉崎村立泉崎第一小学校

六年 久保木美咲

須賀川市立第三中学校

三年 熊澤 絆

白河市立東北中学校

三年 柳沼香里奈

三年 吉成 彩瑛

三年 今井 騎士

棚倉町立棚倉中学校

二年 川崎 愛海

南相馬市立原町第三中学校

一年 寶玉 悠貴

学校法人国際学園
星槎国際高等学校郡山学習センター

一年 二瓶 竣

入 選

福島大学附属小学校

四年 阿部紗也子

五年 南 柚乃

六年 マクマイケル光希

二本松市立二本松北小学校

六年 佐藤 咲那

郡山市立富田東小学校

五年 佐藤 璃空

六年 伊東 洋哉

六年 鎌田 俐乃

六年 影山 雄作

六年 小松 彩

須賀川市立阿武隈小学校

五年 岡部 燈樹

須賀川市立柏城小学校

四年 森 悠斗

四年 古川 雪

四年 佐藤 心春

鏡石町立第一小学校

一年 森尾 和香

須賀川市立義務教育学校福田学園

六年 鈴木 羽麟

六年 渡邊 花音

相馬市立八幡小学校

五年 高橋 真紘

相馬市立中村第二小学校

五年 今野 恋花

相馬市立日立木小学校

一年 星 茉宏

六年 大迫 凜藍

須賀川市立第三中学校

一年 井跡 由理

三年 渡邊 詩奏

三年 熊耳 玲那

三年 西楨 美琴

三年 菅野 奈悠

三年 金田 小春

三年 小川 朋夏

白河市立東北中学校

一年 鈴木 めい

三年 池澤 未羽

棚倉町立棚倉中学校

二年 宮崎 優菜

二年 大谷龍之介

二年 塩田 純平

いわき市立平第二中学校

二年 國井 豪志

福島県立白河実業高等学校

三年 須藤 大成

三年 岡部 功星

『いのちの詩・愛の詩』優秀賞

福島大学附属小学校 四年 菅原 穂人

力をかしてあげたいな
せんそうしている国がある
力をかしてあげたいな
おびえてくらす人がいる
力をかしてあげたいな
ないてかなしむ人がいる
力をかしてあげたいな
笑える日々がくるように
ぼくにはなにができるかな
ぼくにはなにができるかな

須賀川市立第三小学校 一年 鈴木 颯眞

ふとんに入るとえほんタイム
おかあさんがよんだりぼくがよんだり
うとうとしたら「おやすみなさい」のじかん
くらくなつたふとんの中で
ぼくはこっそり「たいせつだよ」
おかあさんはうれしそうに「たいせつだよ」
きつとみんなだれかのたいせつな人
たいせつな人がうれしいと
ぼくはもつとうれしい
きつとみんなそうなんだ

須賀川市立第三中学校 三年 加賀さくら

小さなあたまをなでた。

「ふわふわだね。」

柔らかいほっぺたにふれた。

「ぶにぶにだね。」

柔らかいからだに顔をちかづけた。

「いいにおいがするね。」

小さな小さな手をにぎった。

あたたかかった。

妹が言った。

「あかちゃんって、いのちって、あったかいね。」



『いのちの詩・愛の詩』佳作

福島市立福島第三小学校 一年 正直 由衣

いつもどってくるの。

わたしのかっていたうさぎさんが
うごかなくなった。

こころのなかがちくちくいたい。

おかあさんはこういったんだ。

「うさぎさんは、おほしさまになったんだよ。おそらからこれ
からもみまもってくれているからね。」

かなしいきもちでころがいっぱいになった。うさぎさんあり
がとう。ずっとずっとわすれないよ。

福島大学附属小学校 四年 大河内健太

おじいちゃんが天国に旅立った。

いつもぼくに

「世界で一番好きだよ。」

と言ってくれたね。

じゃんけんではぼくとちがうチョキで二人でわらったね。

とつぜんいなくなつてさみしい。

でも、おじいちゃんはおくの中で生きていて、

いのちは受けつぐものだって教えられた。

これからいのちを大切に生きていくね。

おじいちゃんありがとう！

福島大学附属小学校 四年 北村 唯奈

笑顔の愛

お母さんはいつも笑顔

私がおぼけ眼の時も

気持ちがいずんでいる時も

ムカムカ気分の時も

お母さんの笑顔を見ると

不思議と笑顔になってしまふ

いつか私もなりたいたい

笑顔の愛をあたえる人に

福島大学附属小学校 六年 雨田 陽翔

生後十三日目のぼくへ

ぼくは、生後十三日で心臓の手術を受けました。

完全大血管転位症でした。

顔は赤むらさき色になり、体中管だらけでした。

自分では分からないけれど、けん命に生きていました。

「良くがんばったね。」

今、元気に過ごしていただけるのは、

病院の先生方、両親、ぼくに関わってくれた人たちのおかげです。

本当にありがとう。

「この命を大切に生きていきます。」

郡山市立富田東小学校 二年 吉田さくら

わたしは、かぞくが大すき。
やさしいおとうさん。
あかるいおかあさん。
しっかりもののねえね。
ともだちのような
おもしろいもう一人のねえね。
いえでは一ばん小さいけれど
一ばんこえが大きいわたし。
わたしがわらうとみんなもえがお。
みんながわらうと、わたしもニコニコ。

郡山市立富田東小学校 三年 島田 和玖

お姉ちゃんのこと
「すきー」
と、言うとき、
お姉ちゃんは
「きらいー」
と、言う。
けどね、ぼくは知ってるんだ。
ぼくが、かくれていたりすると、
「和玖は？どこに行ったの？」
と、聞いていることを。

郡山市立富田東小学校 四年 芳賀 一織

戦争って
昔の話と思っていた
朝のニュースで
きれいな街がこわされて
ぼくより小さい子が
泣いている
どうして子どもまで泣かせるの
こんな戦争なんか早く終わって
その子に声をかけてあげたい
「もう、泣かなくていいよ」って

須賀川市立第三小学校 六年 輿水 千夏

学校の花だんに花を植えた
あつくて少し元氣のない花も
水をあげると
次の日は、シャキーンと立っている
咲き終えた花を
一つ一つつみとってあげる
すると新しい花がたくさん咲く
一生けん命にお世話をすると
ちゃんと花はこたえてくれる

須賀川市立柏城小学校 四年 鈴木 悠空

ぼくのおじさんに赤ちゃんが生まれる
男の子かな、女の子かな
赤ちゃん大きいかな、小さいかな
おなかをさすってみんなでにこにこ
ぼくもおなかの中にいるとき
こんなふうに話していたのかな
楽しみななあ、かわいい赤ちゃん
ぼくといっしょにあそぼうね

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 大河原希愛

私の忘れられない言葉
「あなたは笑顔がすてきなだから泣くんじゃなくて笑ってな
さい。」
亡くなる前の祖父の言葉だ
それから私は泣かなくなった
そしたら少し強くなった
私はこの言葉を忘れない
祖父の手のあたたかさも
ずっとずっと覚えている

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 深谷 歩生

ランドセルドライトマトプロジェクト
それは私たちのプロジェクト
ランドセルを送る送料を
自分たちで作り出す活動
アフガニスタンのまだ見ぬ友達を
少しでも喜ばせたい
助けてあげたいという思いで
私たちは心をつにして
最後まであきらめずにがんばる
平和への思いは国境をこえる

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 稲部 瑛翔

ウクライナ
アフガニスタン
会ったこともないけれど
ぼくたちと同じ年の子が
戦乱の中で苦しんでいる。
そのことを知ってぼくらは、
プロジェクトを始めた。
来春にはぼくのランドセルも
アフガニスタンに送るよ。
幸せの思いは国をこえるんだ。

石川町立野木沢小学校 六年 二瓶 沙羅

みんなの笑顔が見られること。
みんなと一緒にいれること。
みんなどこにでもいけること。
みんなと大声で笑いあえること。

また当り前のことが
できるようになった今、
この一しゅん一しゅんを大切にして
今、この時代^{とき}を生きていく。

玉川村立玉川第一小学校 一年 鈴木 愛莉

いのちってなに
むねがきゅんとなった
じぶんだけのものではない
おかあさんがおしえてくれた
みんなのいのち
いきもののいのち
しょくぶつのいのち
たべもののいのち
みんな一つ
いのちがあることに
ここから
ありがとう

平田村立蓬田小学校 一年 塙 妃菜

あのね。
ママのおなかのなかは、とてもあったかくて、
あかるくて、ぷかぷかするところ。
わたしは、いつもおもいだす。
いのちのたいせつさがつたわる。
わたしをうんでくれたママにかんしゃ。
だいすきだよ、ママ。
うまれてきてしあわせ。
いのちに、かんしゃ。

泉崎村立泉崎第一小学校 六年 久保木美咲

夜いつもしゃべりかけている
三人の写真に
もちろん返事は聞こえないけれど
聞いてくれているでしょ
次は何しゃべろうかなって
考えながら
学校のこと家族のこと
また今日の夜も
話をするから
聞いていてね

須賀川市立第三中学校 三年 熊澤 絆

みんなが笑顔になると、
にこにこ、わくわく、るんるん
黄色、橙色の音が鳴る
みんなが泣いていると、
しくしく、ぽろぽろ、ズキズキ
青色、灰色の音が鳴る
新しいいのちが生まれると、
ほわほわ、キラキラ、ドキドキ
黄緑色、黄色の音が鳴る
白色だった音に
希望が哀しみが不安が生命の色が
色鮮やかに彩られる

白河市立東北中学校 三年 柳沼香里奈

帰る場所がある。
「おかえり」と言ってくれる家族がいる。
困っていると助けてくれる友達がいる。
将来の事を一緒に考えてくれる先生がいる。
私にとって当たり前のことでも、
他の人からしたら当たり前とは限らない。
温かい家族がいること、優しい友達がいること、頼れる先生が
いること。
決して当たり前ではない。
私の周りは優しさと愛であふれている。
そのことに感謝する心を忘れないでいたい。
そして、私も誰かの当たり前の優しい人になりたい。

白河市立東北中学校 三年 吉成 彩瑛

だれかの優しい言葉で
だれかの大切ないのちが救われる
だれかの心ない言葉で
だれかの大切ないのちが奪われる
たった一つの言葉で
いのちがつながったりとぎれたりする
言葉はときに凶器となる
私たちが住むこの世界に
優しい言葉があふれたら
どれだけのいのちが救われるのだろうか

棚倉町立棚倉中学校 二年 川崎 愛海

落ちこんでいる人に
「元気出して」というより
すきな人にふられた人に
「もっといい人いるよ」というより
つかれている人に
「大丈夫？」というより
ただそばにいて
話を聞いてもらったり
だしめてもらったほうが
相手はすぐわれる。

白河市立東北中学校 三年 今井 騎士

幸せだね、
日常があるって。
幸せだね、
家族がいるって。
幸せだね、
友達がいるって。
幸せだね。
ほら、
こんなにたくさん
幸せがあるよ。

南相馬市立原町第三中学校 一年 寶玉 悠貴

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター 一年 二瓶 竣

朝になると
地球は
光で照らされる
この光で多くの
命が
目を覚ます

太陽が
いつもより
光っている
これから
新たな命が
誕生する
合図のように

つらい時、逃げ出したい時、悲しい時
命なんていらなと思うわないで
立ち止まってひと息ついてみよう
時間がかかって大丈夫
あなたのまわりに手を差しのべてくれる人がいるから
きつとその先に光がさす時がくるから
命がなければ何もできないよ
たった一つの命
むだにしないで生きていこう

一〇〇文字提案

「わたしがだれかのためにできること」



「わたしが
だれかのために
できること」
受賞者

優秀賞

福島大学附属小学校

四年 松崎 雪乃

須賀川市立第三小学校

一年 小林 杏丞

須賀川市立義務教育学校稲田学園

六年 吉成 舞央

いわき市立平第二中学校

三年 志賀 陽斗

佳作

福島市立福島第一小学校

一年 土田 百華

一年 桜内 心夢

二年 渡邊 圭

三年 富山 愛彩

四年 片平羽那乃

福島大学附属小学校

四年 菅家 葵

五年 草野恵里奈

六年 五十嵐陽馬

郡山市立片平小学校

六年 影山 真優

郡山市立富田東小学校

四年 長谷川航大

須賀川市立第三小学校

六年 海端 玲奏

六年 瀬和 愛璃

須賀川市立阿武隈小学校

五年 佐藤 晃祐

平田村立蓬田小学校

六年 川西 美桜

泉崎村立泉崎第一小学校

六年 小林 優

相馬市立八幡小学校

一年 青田 眺里

相馬市立中村第二小学校

四年 鈴木 龍輝

相馬市立飯豊小学校

一年 杉本 太晴

三年 高橋 希生

四年 杉本琥太郎

五年 志賀 虎桜

相馬市立日立木小学校

四年 遠藤 優信

五年 桑折 彩奈

入 選

須賀川市立第三中学校

二年 齊藤 暁玄

二年 畑 美月

三年 渡邊 住衣

三年 鈴木 颯馬

三年 鈴木 ななみ

白河市立東北中学校

二年 本間 楓香

三年 山田 大翔

棚倉町立棚倉中学校

三年 原 優愛花

いわき市立平第二中学校

二年 木村 遥

三年 畠山 遥

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 二瓶按伽里

学校法人国際学園

星槎国際高等学校郡山学習センター

三年 澤井 優翔

福島市立福島第一小学校

二年 大関 朋花

三年 穴戸結衣菜

福島市立金谷川小学校

六年 菅野 佑季

福島大学附属小学校

四年 石山 英

四年 穴戸 利緒

四年 緑川 悠斗

四年 鹿又 大智

五年 佐藤 真緒

六年 遠藤 由惟

六年 菅野 七愛

六年 久森 太陽

郡山市立片平小学校

六年 阿部 歩

郡山市立富田東小学校

二年 元木 咲那

四年 佐久間梨々奈

五年 富塚 琉

六年 佐原 佑心

六年 伊藤 桧菜

六年 島田 仁瑚

六年 田島 菜花

須賀川市立第三小学校

六年 佐藤 楓華

鏡石町立第一小学校

四年 石森 綺華

玉川村立玉川第一小学校

四年 矢吹 介人

猪苗代町立翁島小学校

六年 楠 脩汰

猪苗代町立緑小学校

六年 佐藤 陽向

相馬市立中村第二小学校

六年 佐藤 未奈

相馬市立飯豊小学校

一年 佐藤 凪

一年 遠藤 心翔

二年 杉本 悠雅

三年 荒川 剛毅

四年 横山 珠奈

四年 小谷 奏介

五年 守田 煌霸

六年 後藤 優季

相馬市立日立木小学校

二年 門馬 早希

二年 草野 琥毅

四年 池部 綾人

四年 星野 蓮

五年 大和田晃聖

須賀川市立第三中学校

一年 小林 花音
一年 箭内 七海
二年 角田 賢祐
二年 渡邊 未来
二年 立石 光希
二年 阿部 希空
二年 安藤 由似
三年 小林 香凜
三年 大中 徠慈
三年 有我 ころ

白河市立東北中学校

三年 本田翔太郎
三年 荒井 珈乃

棚倉町立棚倉中学校

二年 藤田 佳乃
二年 秋山 武蔵
三年 矢田部紗莉

いわき市立平第二中学校

二年 齋藤 真菜
二年 菅原 璃子
二年 佐々木美玲
三年 齋藤 七瀬

福島県立白河実業高等学校

三年 佐藤 莉菜
三年 橘 優太
三年 増田 春
三年 水野谷夏樹
三年 鈴木 彪雅



『わたしがだれかのためにできること』優秀賞

福島大学附属小学校 四年 松崎 雪乃

テレビの向こう側で、秋田の街が水びたしになっていた。

私は、ぼ金箱に今月のおこづかいを全部入れた。

一日も早く、安心してねむれますように。

東北の仲間どうし、よりそう気持ちもば金と一しよにとどきますように。

須賀川市立第三小学校 一年 小林 杏丞

てれびでみた、てんじぶろつく。めがみえないひとのためのものだとした。みつけたら、てんじぶろつくのうえにおちているごみやっぱをひろいながらあるこうとおもった。めがみえないひとが、ころばないように。

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 吉成 舞央

「ヘアドネーション」

その言葉を聞いたとき、

「私が人を救える。」

うれしくなった。

髪をのばすのは案外大変。でも、のば

すのがほこらしかった。

そして髪を切った。

見知らぬだれかのため、がんばれ、私

の髪。

いわき市立平第二中学校 三年 志賀 陽斗

僕の母親は福祉の仕事をしています。

以前母親の職場に行ったのですが、そこ

には、笑顔で御老人の手助けをしている

母親の姿がありました。後日、母親にそ

の事を聞いてみると、「そんなの当たり前

前の事だよ。」と言われ、そんな母親を

見習おうと思いました。

『わたしがだれかのためにできること』佳作

福島市立福島第一小学校 一年 土田 百華

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、もうすぐ八十さいです。わたしとおなじようにはやくあるいたり、はしったりすることはできません。わたしはてをつないだり、だいじょうぶ？とこえをかけたりしています。

福島市立福島第一小学校 一年 桜内 心夢

おばあちゃん、あしのしゅじゅつがんばったね。くるまいすは、いつもわたしがおしてあげるよ。つえもわたしでとなりにいるよ。おばあちゃんのあしがなれるまで、わたしがおばあちゃんのあしをまもるよ。

福島市立福島第一小学校 二年 渡邊 圭

日本はめぐまれた国だ。でもせいかには、ワクチンせしゅをうけられない人もいる。ぼくの学校では、一円玉ぼきんやエコキップがいしゅうをしている。だれかのために、やくだつていたらうれしい。ぼくにもできることだ。

福島市立福島第一小学校 三年 富山 愛彩

そう合でゴミ拾い。ざつ草ぬきやベンチふき。いっしょうけんめいみんなでやった。
(やりたくないなあ。)
そう思ったけれど、
(人のためになるよ。)
そう思うとがんばれる。

人のためになるってとってもいいな。

福島市立福島第一小学校 四年 片平羽那乃

十歳になって、私は初めてボランティアに参加した。それは、ヘアドネーション。私が生まれてからずっと長く大切にのびしてきた髪の毛を、病氣と闘っているどこかの誰かへ、私のエールとして願いをこめて届いてほしい。

福島大学附属小学校 四年 菅家 葵

伊達市で四十度をこえた。温暖化が進んでいる。私はプラスチックの物をできるだけ買わないようにする。買う時は十回考える。まわりにも聞いてみる。未来の地球のために、未来の私たちのために、私は今日から始める。

福島大学附属小学校 五年 草野恵里奈

お年寄りとは階段の上り下りが苦手です。週に何度かあるゴミの日。登園、登校のついでに集積所まで運んであげたら、大変喜んでくれました。「おはようございます。お持ちしますよ。」積極的に声をかけていきたいですね。

福島大学附属小学校 六年 五十嵐陽馬

誰かのためにできることは、物事の本質を見抜くことです。正しい情報を知らないで、誤った情報を拡散してしまうからです。ちゃんと調べずに情報を拡散すれば、風評被害につながって人を傷つけることがあるからです。

郡山市立片平小学校 六年 影山 真優

私は、十六歳になったら、献血に行こうと思っています。献血はだれかの命を救うことができる、命をつなぐボランティアです。

私は、この命をつなぐボランティアに進んで参加しようと思っています。

郡山市立富田東小学校 四年 長谷川航大

サッカーの試合の後みんなでするごみ拾い。
来た時よりも美しくして帰る。

一人でも、いつでもごみ拾いをする。

みんながありがたうと言ってくれるけど、いつでもあたり前だからって言える人になる。

須賀川市立第三小学校 六年 海端 玲奏

毎朝一年生の教室へ行き、朝の身じたくの仕方を教えてあげた。名札つけは、針で指をさしてしまいそうで、見ている私の方が怖くなった。ランドセルが上手にしまえるようになる、たくさんほめてあげたくなった。

須賀川市立第三小学校 六年 瀬和 愛璃

私は、手洗いうがいを呼びかけるポスターを作った。みんなが元気で健康な生活を送れるように、自分にできることを考えている。せっけんやトイレットペーパーの補充は大変だけれど、とてもやりがいを感じている。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 佐藤 滉祐

サッカーの試合が終わり、帰ろうとした時に目の前にゴミが落ちていた。まわりの人はそのゴミをまたいだ。ぼくもまたごうとしたが拾った。今日は一つだが、明日は学校の帰り道二つ拾おうと思う。

平田村立蓬田小学校 六年 川西 美桜

私にできることって何だろう。いつも支えてもらってばかりなのに。辛い時いっぱい泣いた。楽しい時いっぱい笑った。そんな時、私のとなりには家族や友達がいた。私にできること、そうだ分かった。誰かのそばにいてあげよう。

泉崎村立泉崎第一小学校 六年 小林 優

わたしは学校の宿泊で尾瀬に行った。ゴミは尾瀬のマナーでポイ捨てしてはいけない。けれどゴミが落ちている所があったから拾った。わたしは思った。尾瀬だけではなくて、泉崎でもこのことができるのではないかと。

相馬市立八幡小学校 一年 青田 眺里

わたしが、かぞくのためにできることは、おてつだいです。わたしが、いろいろなおてつだいをすると、かぞくのしごことがへります。そのぶんいっしょにいるじかんがふえて、もっとたのしくなります。

相馬市立中村第二小学校 四年 鈴木 龍輝

暑い夏が続く。ぼくはむ意しきにスイッチをおした。数秒でつめたい風がふいた。カーテンで閉ざされたうす暗い部屋、室外機からは熱風がふいていた。ぼくは知らなかった。スイッチ一つで地球温暖化が進んでいることを。

相馬市立飯豊小学校 一年 杉本 太晴

ぼくはさかながすき。みるのもすきだし、たべるのもすき。だから、うみとかわをきれいにしたい。きれいなさかなをみたいから、げんきなさかなをみたいから。ゴミをすてない、ゴミをみつけたらひろう。ぼくがいまできること。

相馬市立飯豊小学校 五年 志賀 虎桜

みんなにやさしく、いざいとうきたよりにされる自分。けんかがあった時、何があったかきいて話し合える自分。分からない問題を教えてあげられる自分。そんな自分に成長することが、みんなのためにできることだ。

相馬市立飯豊小学校 三年 高橋 希生

台風による災害で毎年日本各地で水害がおきています。私の地いきでも台風で断水した事があり、各地からのぼ金や自えい隊から助けてもらい、とてもうれしかったので、私もぼ金をして少しでも役に立ちたいと思います。

相馬市立日立木小学校 四年 遠藤 優信

私は、今日プールからあがる子に手をさしのべました。別の日にはたくさんの荷物を持った子の荷物を持ってあげました。また、別の日に元気がない子に声をかけました。ぼくにできることは小さなことだけど、続けていきたい。

相馬市立飯豊小学校 四年 杉本琥太郎

今年の夏も暑い。それなのに、暑い中がんばって畑仕事をしている地いきのおじいさんや草むしりをしているおばあさん。ぼくができることは、「こんにちは。」と笑顔であいさつと、「大丈夫ですか。」と声をかけることです。

相馬市立日立木小学校 五年 桑折 彩奈

私は今、地球温暖化という社会の問題を少しでも減らすために、私でもできる事を調べてみたら、野菜を今より多く食べるだけでも、対策の一つになると知りました。少しでもできる事はないか探し、実行していきたいです。

須賀川市立第三中学校 二年 齊藤 暁玄

僕がだれかのためにできることは三Rだ。リデュース、リユース、リサイクル。これらを実せんすることは、だれかのためになるだけでなく、この地球に住むみんなのためになると思う。だから、進んで三Rを心がけたい。

須賀川市立第三中学校 二年 畑 美月

母から聞いた。「外国には恵まれない人達がたくさんいる。」と。そして、私はある行動に移した。昔使っていたランドセルや洋服を箱につめて送った。実際に私の物を持って笑っている人達の写真を見て嬉しく思った。

須賀川市立第三中学校 三年 渡邊 住衣

人に優しくすることは誰でもできるわけではない。全てやってあげることが優しさではなく、その人の成長を奪ってしまうことになるかもしれない。だから、私は過度な干渉をせず見守ってアドバイスができる人になりたい。

須賀川市立第三中学校 三年 鈴木 颯馬

私は、この世の人間関係における「垣根」に拘泥しないことが大切だと思う。性や年齢はもちろん、障碍や個人の考えに到っても、「垣根」はないはずだ。互いに協力するのが、人間として与えられた役割であろう。

須賀川市立第三中学校 三年 鈴木 ななみ

SDGs。あと、七年で解決しなければいけない課題。解決の糸口を見つけるのは他の誰でもなく、今を生きる私たちです。だからこそ、私は毎日の生活から見直し、地球を助ける毎日を通していきたいと考えます。それが私の協力し、助ける、地球。CHES。

(Cooperation) (Help) (Earth) (s)

白河市立東北中学校 二年 本間 楓香

知らないおばあさんが重そうな荷物を運んでいた。私はとっさに、「大丈夫ですか?」と聞いていた。運び終わったら、「ありがとう。一生忘れません。」と言ってもらえた。ジュースと他の人にできる温かい思いがもたらえた。

白河市立東北中学校 三年 山田 大翔

送迎をしてくれたバスの床を見た。泥がたくさんついていて、すぐに箒を持ってきて掃除した。とても綺麗になった。翌日、バス会社からの電話で褒めていただいた。人のために何かすることは気持ち良かった。

棚倉町立棚倉中学校 三年 原 優愛花

私は昨日、父に褒められた。私は今日、後輩を褒めた。父から貰った温かい心を、後輩に贈ったのだ。

温かい心の送り合いは、他者を認め合うことに繋がる。これが、幸せな世界を創るために私ができることだ。

いわき市立平第二中学校 二年 木村 遥

けんかをしている人達の話の聞いてみると、相手の意見を否定ばかりせず聞いてあげていけば、そのけんかは起きなかっただろうとよく思う。誰かと仲良く、平和に過ごすためには、まず、相手の意見を聞いたり理解しようと努力したりすることが大切だと思った。

いわき市立平第二中学校 三年 畠山 遥

私がだれかのためにできる事はあるのでしょうか。自分が直接人を助けたり、だれかのヒーローになったりすることはできないけど、だからこそ、目の前の人はどうしたら喜ぶかとか、うれしいかとか考える事だけは、こんな自分にもできる事だと思います。

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校 二年 二瓶按伽里

私が人のためにできることは、経験を伝えることだと気づいた。救急法を学んだ際に、もっと救急法を多くの人に知って欲しいと思った。そこで経験から学んだことを人と共有することで、より経験が人の役に立つと気づいた。

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター 三年 澤井 優翔

僕が誰かの為に出来ることは勉強だ。僕は昔から心が弱くて、ずっとカウンセラーの先生に助けられてきた。僕も将来カウンセラーになって恩返ししたい。その為に知識をつけて、適切な言葉をかけなくちゃいけない。だから、僕は誰かの為に勉強をする。

一〇〇文字提案

「世界の見知らぬ友へ」

【小・中学生】





優秀賞

福島市立福島第一小学校

一年 山内悠太郎

佳作

福島市立金谷川小学校

六年 菅野 羽菜

郡山市立富田東小学校

二年 花岡 蜜羽

二年 佐藤 美月

五年 菅野 紗希

石川町立野木沢小学校

六年 圓谷 心葵

玉川村立玉川第一小学校

四年 溝井 紅介

相馬市立中村第二小学校

三年 西谷ふたば

白河市立東北中学校

二年 鈴木 萌生

いわき市立平第二中学校

三年 庄司 太郎

入選

福島大学附属小学校

四年 真部 幸望

五年 菅野 結菜

六年 佐々木脩斗

六年 皆川 奏智

郡山市立富田東小学校

五年 小林龍之介

六年 松木 結唯

須賀川市立義務教育学校稲田学園

六年 味戸 励樹

喜多方市立慶徳小学校

五年 佐藤 結愛

相馬市立飯豊小学校

五年 青田 瑠那

須賀川市立第三中学校

一年 半谷 文葉

三年 関根悠姫奈

三年 根本 大地

いわき市立平第二中学校

二年 石田 朱里

「世界の見知らぬ友へ」【小・中学生】優秀賞

福島市立福島第一小学校 一年 山内悠太郎

ぼくはにほんにすんでいて、にほんごしかはなせません。いつかで
あうせかいのどこかにいるともだちは、なにごではなしているかな。
あえたときちゃんとおはなしでできるよう、いろんなことばをべんき
ようしておくね。

『世界の見知らぬ友へ』【小・中学生】佳作

福島市立金谷川小学校 六年 菅野 羽葉

私は世界の友といっしょに大きな紙に絵をかきたいです。美しい景色やみんなが笑顔で平和な絵をかきながら、友の好きなことや、国のことを話したいです。そして、みんなでかいた絵が当たり前前の社会にしていきたいです。

郡山市立富田東小学校 五年 菅野 紗希

転校生が来たら、いつも一番に声をかける。わたしの知らない町、学校、生活を知ることができて、わくわくするから。目を見て話していっしょに笑えば、もうお友達。たくさん出会って、話を聞いて、世界中にお友達を作れたらいいな。

郡山市立富田東小学校 二年 花岡 蜜羽

二年生になって、ベトナムからあたらしいともだちがきた。ことばがちがっていても、うれしいときはえがおで、かなしいときはなみだ。みんな同じなんだね。せかいが一つにつながれば、みんながともだち、みんながえがお。

石川町立野木沢小学校 六年 圓谷 心葵

こんにちは。いきなりですが、あなたには大事な人はいいますか。私はいます。家族です。あなたにも大事な人がいたらいいなと思います。もしいないのならば、私があなたの「友達」として大事な人になります。では、また。

郡山市立富田東小学校 二年 佐藤 美月

わたしのすきな「てぶくろ」というウクライナの本。一つの手ぶくろに、どうぶつたちがばしょをゆずり合って、なかよくくらしている。この本に出てくるどうぶつのように、せかい中の人たちがなかよくすごしてほしいな。

玉川村立玉川第一小学校 四年 溝井 紅介

ぼくはサッカーが大好きだ。アフリカの子供達のはだしでサッカーをしている映像を見た。とても楽しそうだった。ぼくもいつかあの子達とサッカーをしてみたいな。言葉は通じなくても、サッカーでならつながれる気がした。

相馬市立中村第二小学校 三年 西谷ふたば

ユニセフのCMを見て、世の中にはこんなにやせていて、悲しそうな目の子供たちがいるんだなと知りました。あの子たちには会えたら、私がいつも食べているおいしい給食や、おやつと一緒に半分こにして食べたいです。

白河市立東北中学校 二年 鈴木 萌生

私が楽しく笑っているとき、世界のどこかで涙を流している子どもがいると思うと、自分はこのままでいいのかと考えることがある。その子達に元気をあげられるよう、自分に自信を持ち、今日も私は精一杯息を吸う。

いわき市立平第二中学校 三年 庄司 太朗

僕は海外の人達と同じ目的でゲームをしたい。理由は言語が違っても通じあえるからだ。言葉がわからなくとも、同じ目的さえあればだいたい理解できる。貧しい人や差別など関係なく、どんな人でも平等に仲良くしたい。

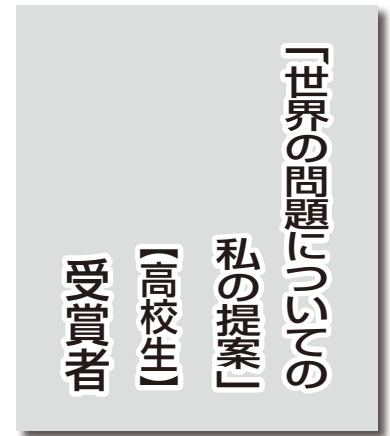


一〇〇文字提案

「世界の問題についての私の提案」

【高校生】





佳作

福島県立白河実業高等学校

三年 松山 里奈

福島県立平支援助学校 高等部

二年 西戸 陽翔

入選

福島県立白河実業高等学校

三年 角田 優衣

三年 遠藤 梨緒

三年 井田川 拓海

三年 佐藤 勇午

三年 角田 花奈



『世界の問題についての私の提案』【高校生】佳作

福島県立白河実業高等学校 三年 松山 里奈

本当にその一言は必要ですか？本当にその人を傷つけないといえますか？そんな何気ない一言で傷つき、悲しむ人は沢山います。理解出来ないではなく、すこしでも寄りそうことが今の世界にはとても大切だと私は思います。

福島県立平支援助学校 高等部 二年 西戸 陽翔

世界の問題について私のような高校生ができることは、本当に些細なことだと思います。ですがJRCの活動に参加して問題を知ることだったり、何か自分にできることを見つけ、それが些細なことでも取り組むことが大切だと思います。



一〇〇文字提案

「わたしの夢・福島未来」



「わたしの夢・
福島未来」
受賞者

優秀賞

郡山市立富田東小学校

三年 上野 美織

四年 岩見 藍

六年 根本 毘那

会津若松市立日新小学校

五年 中川 千秋

白河市立東北中学校

三年 平久江真菜

佳作

福島市立福島第一小学校

三年 佐藤 大和

福島大学附属小学校

四年 栗野多加良

郡山市立富田東小学校

二年 渡部 杏

四年 遠藤ひなた

五年 岸野 桜大

五年 柏田 凌佑

六年 佐藤 詩桜

六年 阿部 美空

六年 山田 陽愛

須賀川市立第三小学校

六年 鈴木 佑理

六年 佐藤 優衣

須賀川市立阿武隈小学校

五年 佐藤 光絆

須賀川市立義務教育学校稲田学園

六年 橋本麗緒奈

六年 岩崎ゆうか

喜多方市立慶徳小学校

六年 岩崎 楓久

相馬市立日立木小学校

五年 佐藤美沙希

須賀川市立第三中学校

二年 瀬谷隆之介

三年 釋 理恵

棚倉町立棚倉中学校

二年 緑川 奏音

いわき市立平第二中学校

三年 菅野 音祢

三年 横山 瑠己

三年 浦島 紺生

福島県立白河実業高等学校

三年 鈴木 文也

学校法人国際学園

星槎国際高等学校郡山学習センター

三年 齋藤 日向

入選

郡山市立富田東小学校

三年 川田 彩芽

四年 佐久間結愛

五年 鈴木 咲来

五年 紺野 華愛

五年 芝 柚咲

五年 高橋 悠人

五年 伊藤 凜

五年 加藤 星那

五年 沼崎 美月

五年 蘇武 朱璃

六年 長尾 希依

六年 星野 琴羽

六年 根本 結生

六年 渡辺 桃子

六年 山田 莉音

六年 今泉 咲良

六年 野坂 悠希

六年 及川 凜音

六年 関根 愛佳

六年 横田 陽愛

六年 渡辺 里奈

六年 大和田沙和

六年 小野塚柚月

須賀川市立第三小学校

二年 小黒 未稀

六年 吉田 望愛

六年 渡邊 諭慎

六年 鈴木さくら

須賀川市立阿武隈小学校

五年 木幡 結衣

五年 鈴木 惺愛

五年 花見 莉希

六年 大沼 あい

須賀川市立柏城小学校

四年 亀岡 希叶

須賀川市立義務教育学校稲田学園

六年 円谷 愛花

六年 根本 大樹

白河市立表郷小学校

六年 市川ことみ

猪苗代町立翁島小学校

六年 吉田 千紗

六年 佐賀 結斗

猪苗代町立緑小学校

四年 六角 柊吾

喜多方市立慶徳小学校

六年 坂内 瑠菜

相馬市立八幡小学校

一年 佐藤 花奏

四年 半杭 知樹

六年 佐々木朝陽

相馬市立日立木小学校

六年 谷津田 幸

須賀川市立第三中学校

一年 西澤 花歩

二年 角田 愛華

二年 関根 麗央

三年 伊藤 希花

白河市立東北中学校

一年 笹川 博雅

二年 柳沼優樹奈

棚倉町立棚倉中学校

三年 近藤 歩華

いわき市立平第一中学校

二年 渡辺 陽斗

三年 菅野 陽

三年 小畑 ゆめ

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二年 黒羽悠太郎

『わたしの夢・福島未来』優秀賞

郡山市立富田東小学校 三年 上野 美織

わたしが生まれる前は、家の回りにし
ぜんがあつて、たぬきやきじを見かける
ことがあったらしい。今はもういない。
すみやすい所もいいけど、動物がすむ所
も大切にして、しぜんもある福島であつ
てほしい。

郡山市立富田東小学校 四年 岩見 藍

私の夢はシェフになることです。小さ
い時からお母さんの作る料理が大好きで
す。おいしい食材が沢山ある福島に生ま
れたので、福島の食材を沢山使った料理
を作るシェフになり、世界中の人たちに
食べてもらいたいです。

郡山市立富田東小学校 六年 根本 毘那

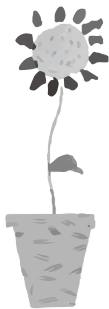
私の夢は、獣医になること。ずっと変わらないけれど、最近夢が一つ増えた。それは、通訳になることだ。英語が大好きで、勉強をがんばっている。でも、犬も助きたい。だから、英語が話せる獣医を目指したい。

会津若松市立日新小学校 五年 中川 千秋

ぼくの夢は、管理栄養士になることです。理由は二つあります。一つ目は、病院の患者を食で支えて、病気を治したいからです。二つ目は、スポーツ選手に栄養のある料理を食べさせて、元気に試合に出てもらって勝ってほしいからです。

白河市立東北中学校 三年 平久江真菜

コロナ禍を過ごしてから何度も「医療従事者」という言葉を耳にした。このコロナ禍を私たちが乗り越えられたのは、一生懸命働いてくれた医療従事者の方々のおかげだと私は思う。どんなに困難な状況にでも立ち向かえる「強い医療従事者」に私になりたい。



『わたしの夢・福島未来』佳作

福島市立福島第一小学校 三年 佐藤 大和

おじいちゃんの手、にぎったら、こたつのように温かい。
おじいちゃんが、しごとをおわってさわる手はもっと温かい。
また、あの手をさわりたい。おじいちゃんにまた会いたい。

福島大学附属小学校 四年 栗野多加良

私は、ミニチュア作家になって福島を知らない人に、伝えたいです。そのために今は福島の地図や建物名所を調べています。
また、福島の特産物を知るために家ぞくで出かけて情ほうをたくさん集めるようにがんばっています。

郡山市立富田東小学校 二年 渡部 杏

わたしは、びょういんのせんせいに、なりたいです。こまっ
ている人をたすけたいからです。いっぱいおべんきょうして、
かんごしになり、人のいのちをすくってみんなをすくえる人に、
わたしはなりたいです。

郡山市立富田東小学校 四年 遠藤ひなた

HELLO、世界のみんな。私は英語の勉強をがんばっています。しょう来パティシエになって、みんなにドキドキと幸せをとどけたいから。むずかしくていやになる事も多いけど、未来の私に追いつくようにがんばるよ。

郡山市立富田東小学校 五年 岸野 桜大

やっとお母さんたちが試合を見に来れるようになった。コロナ禍の体育館は、静まりかえっていた。
ぼくは、福島県の人達が、ワクワク、ドキドキするようなバスケ選手になりたい。応援は、ぼくの力になる。

郡山市立富田東小学校 五年 柏田 凌佑

ぼくの夢は、ゲームプログラマーです。なりたい理由は、福島のことをもっと知ってもらいたいからです。福島のことをモチーフにしたゲームを作り、「福島県はすごい」と思ってもらえるゲームを作りたいからです。

郡山市立富田東小学校 六年 佐藤 詩桜

私の夢は、福島の人を笑顔に、そして元気にさせるサンドウィッチを作ることです。その夢に向けて今は、料理を練習しています。これから、もっともっと練習して、福島の人が笑顔いっぱいになってくれるように、がんばります。

郡山市立富田東小学校 六年 阿部 美空

わたしのしょうらいの夢はかいごしです。おばあちゃん、おじいちゃんをお世話する仕事です。かいごしは一人一人の命を責任もってお世話するので、一人でも多く長生きできるようにとしょうらいがんばっていききたいです。

郡山市立富田東小学校 六年 山田 陽愛

私の夢は、調理師の資格を取る事です。資格を取って、福島で採れるモモやきゅうり、馬肉などをだれもが食べられるような料理にして、県民のみなさんに親んでもらえるようにしたいです。福島の特産品を広めていききたいです。

須賀川市立第三小学校 六年 鈴木 佑理

私の夢は、人にやさしく、環境にやさしい家をつくること。母にとって家事がしやすく、仕事につかれた父を迎えられ、子どもが目がかがやかせるような、いいの場。そんな家を、とどけていくことが、私の夢なのだ。

須賀川市立第三小学校 六年 佐藤 優衣

私の将来の夢は、医師になること。おばあちゃんが病気で入院することになったので、医師になって私も一緒に病気とたたかいたいと思ったのだ。病気で苦しむ人の力になりたい。一人でも多くの人を救いたいと思う。

須賀川市立阿武隈小学校 五年 佐藤 光絆

ぼくの夢は、世界の技術を発展させ、みんなのくらしをより豊かにする科学者になることだ。数学や理科の知識を使ってそれを応用して、福島未来をより良くすることだ。その未来に向けてぼくは今、理数けいに取り組む。

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 橋本麗緒奈

東大の先生から放射線の話聴いた。たくさん大人の福島のことを考え、力を貸してくれていることが分かった。そして、私が見えてない所でも頑張ってくれている人がいるということを知って、感謝の気持ちでいっぱいになった。福島未来を私も守りたい。

須賀川市立義務教育学校稲田学園 六年 岩崎ゆうか

今、福島海で原発の処理水の放出が始まっている。ニュースでは、漁業者が風評被害を心配しているときいた。だから私は、福島おいしい魚を食べ、良い所を伝え、福島のために出来ることをする。福島のために。

喜多方市立慶徳小学校 六年 岩崎 楓久

ぼくは、学校でSDGS活動をしています。エコキャップ活動や節水、節電をしています。ぼくは、未来の世界のために、今、環境問題とたたかっています。小さな一歩だけれど、たたかいつづけます。未来のために。

相馬市立日立木小学校 五年 佐藤美沙希

わたしは、人と会話をしたり、笑ったりするのが苦手です。わたしの未来は、多くの人と出会い、笑顔と会話を通じて助けたり、喜んでもらえる人になりたいです。福島で輝く自分になりたいです。

須賀川市立第三中学校 二年 瀬谷隆之介

僕の将来の夢は、「カウンセラー」です。福島にもさまざまな問題で苦しんでいる子や人がいて、カウンセラーになって誰かの「光」になりたい。そしたらきっと福島の希望の未来に少しずつ近づけると思っています。がんばります。

須賀川市立第三中学校 三年 釋 理恵

私は中学三年生になって、周りの先生方に自分の悩みを相談するようになった。先生方は親身になって話をきいてくださって、何度も心が救われた。私は中学校の先生になりたい。私がしてもらったように、人それぞれの悩みを持つ中学生の助けになりたいと思った。

棚倉町立棚倉中学校 二年 緑川 奏音

私の夢は、助産師になることです。出産という貴重な瞬間に立ち合うことができるからです。私は日常的に誰にでも優しく接することを心がけています。助産師になった時に、妊婦の方にも赤ちゃんにも優しく接したいと思います。

いわき市立平第二中学校 三年 菅野 音祢

私の夢は、訪問看護師になることです。そのために頑張っていることは、手話を覚えることです。なぜなら、看護師はコミュニケーション能力がだいじなので、耳が不自由な方や目が不自由な方などとコミュニケーションをとれるように手話を覚えることを頑張っています。

いわき市立平第二中学校 三年 横山 瑠己

自分は、ゲームクリエイターになるのが夢であり、そのために英語の勉強に励んで色々な経験をしています。好きなことを仕事につなげられることが自分は大事だと思いますが、好きなことだけやっても夢は達成できないので、今ある課題をこなし悔いのない人生にしたいです。

いわき市立平第二中学校 三年 浦島 紺生

わたしの夢は、イラストレーターになることです。そのための初歩として、身近なものにもっと目を向けることを意識しています。光や影のつき方、服のシワ、かみの動きなど、いつも気にしていなかったものを観察し、自分の絵に生かせるようにしています。

福島県立白河実業高等学校 三年 鈴木 文也

私は、競輪選手になるために日々努力している。毎日トレーニングをして競技力の向上に努め、競輪選手に一步でも近づこうとしている。厳しい世界ではあるが、小さい頃からの夢なので、頑張っていきたい。

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター 三年 齋藤 日向

農業をやるのが私の夢です。農業で福島県を盛り上げたいです。農業をする人はどんどん減っています。高齢化もしています。福島県には田んぼや畑がたくさんあるのにもったいないです。私は夢に向かって頑張りたいです。

作品応募校

石川町立野木沢小学校

石川町立石川中学校

玉川村立玉川第一小学校

白河市立東北中学校

平田村立蓬田小学校

棚倉町立棚倉中学校

福島市立福島第一小学校

白河市立表郷小学校

会津美里町立本郷中学校

福島市立福島第三小学校

泉崎村立泉崎第一小学校

南相馬市立原町第三中学校

福島市立金谷川小学校

棚倉町立近津小学校

いわき市立平第二中学校

福島大学附属小学校

会津若松市立日新小学校

学校法人福島成蹊学園福島成蹊高等学校

二本松市立二本松北小学校

猪苗代町立翁島小学校

学校法人松韻学園福島高等学校

郡山市立片平小学校

猪苗代町立緑小学校

福島県立白河実業高等学校

郡山市立富田東小学校

喜多方市立慶徳小学校

学校法人国際学園星槎国際高等学校郡山学習センター

須賀川市立第三小学校

喜多方市立駒形小学校

福島県立平支援学校 高等部

須賀川市立西袋第二小学校

相馬市立八幡小学校

須賀川市立小塩江小学校

相馬市立中村第二小学校

須賀川市立阿武隈小学校

相馬市立飯豊小学校

須賀川市立柏城小学校

相馬市立日立木小学校

鏡石町立第一小学校

南相馬市立上真野小学校

須賀川市立義務教育学校稲田学園

須賀川市立第三中学校

年度別応募状況

年 度	応 募 校 数 (校)				応 募 作 品 数 (点)			
	小学校	中学校	高等学校	合 計	小学校	中学校	高等学校	合 計
平成18年度	29	10	1	40	951	385	25	1,361
平成19年度	32	6	4	42	1,749	211	115	2,075
平成20年度	29	2	2	33	1,683	268	45	1,996
平成21年度	24	2	4	30	1,401	159	64	1,624
平成22年度	42	7	2	51	2,859	757	24	3,640
平成23年度	35	7	1	43	3,325	912	4	4,241
平成24年度	47	11	18	76	3,666	735	338	4,739
平成25年度	60	14	20	94	5,602	1,048	889	7,539
平成26年度	48	6	12	66	5,175	1,018	1,027	7,220
平成27年度	45	12	13	70	3,992	1,373	76	5,441
平成28年度	44	11	9	64	4,847	1,433	405	6,685
平成29年度	43	12	9	64	3,542	1,048	477	5,067
平成30年度	35	11	7	53	3,043	1,047	397	4,487
令和元年度	39	8	7	54	2,784	457	198	3,439
令和2年度	26	7	6	39	2,210	744	76	3,030
令和3年度	30	6	9	45	2,120	403	355	2,878
令和4年度	35	9	4	48	2,123	471	323	2,917
令和5年度	30	7	5	42	1,850	736	226	2,812

令和5年度 テーマ別応募作品数

(点)

テ ィ マ	小学生	中学生	高校生	合 計
いのちの詩・愛の詩	395	190	36	621
わたしがだれかのためにできること	637	291	76	1,004
世界の見知らぬ友へ【小・中学生】	174	83		257
世界の問題についての私の提案【高校生】			83	83
わたしの夢・福島未来	644	172	31	847
応募総数	1,850	736	226	2,812

作品審査を終えて

「詩・一〇〇文字提案」作品の審査は、令和五年度で十八回を迎えました。テーマに少し変更はありましたが、今回も、四十二校から二千八百点余の作品を応募していただきました。本当に嬉しい限りです。最初に、作品を寄せていただいた学校や指導に関わってくださった先生方、そしてたくさん作品を寄せてくれた児童・生徒の皆さんに対して、審査員一同心から感謝し、お礼申し上げます。今後とも、青少年赤十字活動を身近に感じ、実践することを通して、さらに募集の趣旨にかなった、子どもらしい発想や思いが感じられるよい作品が生まれることを祈っています。

私たち審査員は、青少年赤十字が大切に行っている実践目標や態度目標に関わるテーマを通して、子どもたちが実体験を振り返り、感動や思いを深め、自分のよさを生かしてよりよい学校生活をつくりだすことができるようにと願っています。そこで、わずか百文字の文章から、態度目標の素地となる望ましい心の動きや考えを見つけて、それらを讃えるとともに、作品集として広めたいと考えています。私たち賛助奉仕団員と心を同じに

する全国の多くの仲間にも読んでいただき、「すばらしい作品集」と感想をいただいております。私たちは、今回もこの作品集を作っていることを誇りにして審査にあたりました。

しかし、新型コロナウイルス感染症がやや治まってきたとはいえ、現在もまだまだ限られた生活の中で、子どもたちは多くのことに気づき、そのことについて考え、どう実践するか考えて取り組んでいます。そして、その実践したことを素直な気持ちで表現してくれました。また、それは、忙しい中で真摯に子どもたちを指導し、見守ってくださった先生方がおいでになってのことと、心より感謝申し上げます。

特別賞を受賞した須賀川市立第三小学校 佐藤大武さんの、自分たちが育ててきたメダカを、次年度の五年生が世話をし、また卵を産んで命が続いていることへの感動は、私たち審査員一同も強い感動を与えられました。

相馬市立飯豊小学校 志賀蘭音さんの、「私は、まだ小さい。そんな小さい私でも、勇気を出して話しかけられなくても、落ちているゴミを拾うことならできる」からは、できることから始めようとする強い意志を感じさせられました。

白河市立東北中学校 佐久間柑奈さんの、「持てる全てを駆使して、小さなことを話題にして、全員が楽しめる会話をしよう」には、隔てているものがあっても、壁になんかならない。

なんて前向きな気持ちなんだろうと勇気を与えられました。

郡山市立富田東小学校 柳沼慎之輔さんの、コロナウィルスを治す薬をつくって、笑顔と笑い声のある世界にしたいとは、なんとたくましくすてきな夢でしょう。

相馬市立八幡小学校 井上煌逢さんの、ママの匂いに安心する姿。どんな時でも、ほっとする。本当にそうですね。

県立白河実業高等学校 高野桃花さんの、私にできることが増えるたび、おじいちゃんにはできないことが増えていくという思い。それが命のリレーなのかも知れませんか。「今度は私が手を差し出す番だ」には、桃花さんの強い意志が感じられます。

最後に、優秀賞を受賞した作品や佳作となった作品、惜しくも入選となった作品、それぞれ豊かな感性にあふれたすてきな作品ばかりでした。すてきな感動を与えてくれたみなさんに心より御礼申し上げます。

令和五年十一月 最終審査会にて

審査員長 松田貞夫



審査にご協力いただいた皆様（敬称略）

☆ 審査員 長（福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長）

松田 貞夫

☆ 審査員（青少年赤十字福島県指導者協議会長、福島県青少年赤十字賛助奉仕団員）

鴨原 理	青山 邦夫	安齋 宏之	伊藤 弘行
鵜沼美枝子	遠藤寿美子	圓谷 厚子	圓谷 円
春日 芳則	勝見 州良	金谷 哲	菊地 裕二
木村 真一	小林 伸行	午來 勝顕	今野 滋子
佐藤 吉郎	佐藤 吉則	鈴木美津子	高橋 恵子
高橋 澄子	高橋 光雄	高野 博幸	田村 良江
土屋 悦男	中島 清州	長谷川文之	原 豊子
宮前 貢	山内 寿一	吉川 和夫	渡邊 義人

☆ 事務局（日本赤十字社福島県支部）

事務局 長
調整 監
組織振興課 課長
ボランティア係 長

久保 克昌
岸波 庄一
石田 政幸
相澤真理子
阿部 正明
菅野勇一郎
小池 樹里

